

# 令和2年度事業報告

- 【運動方針】 日本の美風の「蘇生」と「新生」
- 【重点活動】 「伝えよう、日本の心プロジェクト」
- 【スローガン】 できる親切はみんなでしょう、それが命を守る力となるように

## 公益目的事業 1 「小さな親切」運動を通じて国民の心身の健全な発達と豊かな人間性を涵養

### 1. 「小さな親切」実行章贈呈事業

- 令和2年度受章事由の傾向
  - ・ 手作りマスクの寄贈、医療従事者に感謝のメッセージを贈ったなど、コロナ禍だったからこそその内容が多くみられた。

- 令和2年度受章者数 48,270名

年度	団体		個人
	団体数	人数	
令和2年度	362	44,295	3,975
参考(令和元年度)	376	39,407	5,780

- ・ 緊急事態宣言下での一斉休校、また外出、交流等の規制により、受章者の大幅な減少が予測され、実際に年度初めは推薦数が少なかったが、夏以降は、コロナ禍の中にあるからこそその親切行為が多数寄せられたほか、学校からの推薦も例年通り寄せられるようになった。
  - ・ 昨年度に比べ推薦件数は減ったものの、長年ボランティア活動を行っている、所属人数の多い団体の推薦が目立ったことから、年間受章者数は昨年度を上回った。
- 実行章贈呈者数累計 5,999,667名
    - ・ 昭和38年の運動スタート時よりこれまでの、実行章贈呈者累計が間もなく600万人に到達。年度初めにも600万人目が想定されるが、当面地方と関東の行き来は難しいと考えられることから、受章者が関東近県の方の場合は、中央本部総会等の席上で贈呈。また地方の場合は、地域組織から伝達いただけるよう依頼する。

- 「伝えよう、日本の心プロジェクト」事業の一環として実施  
海外との交流、外国人への親切が受章事由である個人、団体に特別バッジを贈呈。

特別バッジ贈呈数：617個

※参考 令和元年度 1,117個



特別バッジ

- ・ 旅行者などの訪日外国人との接点が激減し、特別バッジの贈呈数は前年度より減少しているものの、日本に長期滞在する外国人との交流、支援に関連する推薦が寄せられた。

#### ○ 実行章贈呈式

- ・ 毎年開催している伝達式を中止、延期とした県本部・支部が多数あり、賞状を送付する形で届けた場合も多かった。
- ・ 贈呈式を開催した組織では、受付での検温ならびに手指消毒、緊急連絡用名簿の記入を行うほか、例年よりも広い会場で受章者席の間隔を空ける、写真撮影時以外はマスク着用を必須とする、授与者との間に透明なパーティションを設置するなどの感染対策を行って実施した。
- ・ 贈呈式のほか、実行委員会や理事会などの毎月の会合に合わせて伝達式を開催する、あるいは受章先に出向き少人数で贈呈する組織も複数あった。

#### ○ 実行章バッジの販売

価 格：1 個 150 円（税込・送料別）

販 売 数：1,697 個

※参考 令和元年度 2,114 個

おもな購入者：13 県本部・8 支部・学校、受章者本人など

- ・ バッジ購入者の多くは個人受章者や推薦者（受章者に贈呈）であるが、令和元年度と比べ、個人の受章者が少なかったことから、販売数は減少。

#### ○ 実行章受章者へのアンケート

目 的：実行章のもたらす効果を分析するとともに、改めて運動に関心を持っていただき、賛同者になってもらうこと。

対 象：大人（高校生以上）の個人と団体 888 先

回 答 数：127 件

※参考 令和元年度 196 件

個人、団体とも受章について「うれしい」との回答が 96%を超え、今後の活動の励みになる、推薦してもらったことに感謝したいといった声のほか、学校の教員からは、子どもたちの喜ぶ姿から教育的効果が大きいと感じた、という声が寄せられた。また、今後の推薦活動について確認した質問では、「ぜひ推薦したい」（個人 25.8%、団体 37.7%）、「推薦したい」（個人 62.9%、団体 50.8%）と、前向きな回答が多かった。

## 2. 第45回「小さな親切」作文コンクール

#### ○ 応募作品の傾向

- ・ マスク不足、外出や帰省の自粛、ソーシャルディスタンスなど、コロナ禍をき

っかけに、親切のあり方や新しい生活様式でのコミュニケーションの形を考える作品が目立った。

- ・ また、家庭で過ごす時間が増えたことから、身近な人との関係を改めて見つめ、感謝を伝えたり、今自分にできることは何かを考える内容の作品が寄せられるなど、感染症によって変化した日常の中で、気づいたことや心の動きをつづった優れた作品が複数寄せられた。
- ・ その他、昨年に引き続き、障がいのある方、高齢者との関わりをテーマにしたものや、被災地支援、ヘアドネーションなどのボランティア体験について書いたものも多かった。

○ 応募総数 23,704 編 (前年度より 18,675 編減)

内 訳：小学生 448 校 3,760 編・中学生 540 校 19,944 編

※参考 令和元年度 42,379 編

(小学生 675 校 10,420 編・中学生 694 校 31,959 編)

- ・ 感染症流行による学校休校の影響で、夏休みが短縮された結果、応募数は前年度に比べ大幅に減少した。

○ 「伝えよう、日本の心プロジェクト」事業の一環として展開

1) 「東京 2020 応援プログラム」認証を受け、東京 2020 応援マーク入りの、ポスターと応募要項を作製。

ポスター 4,700 部 ・ 応募要項 8,600 部

2) 特別テーマに沿った作品の割合は、入賞・入選作品のうち 10.0%(昨年度 18.5%)。ホームステイなどの渡航体験は減ったものの、在留外国人との交流や、旅行者との思い出を書いた作品が寄せられた。本テーマの作文の中から、兵庫県 愛徳学園小学校 5 年 河合杏奈さんに『フレンドシップ賞』を贈呈。

○ 入賞・入選作品の発表

作品集には、上位 30 作品を収録。入選 100 名は氏名紹介のみとなることから、本部 WEB サイトにて全入賞・入選作品を令和 3 年 1 月より随時掲載。

〔実施概要〕

後 援：内閣府 文部科学省 NHK 毎日新聞

テ ー マ：「小さな親切」

特別テーマ：「世界との出会い ～ありがとう、どういたしまして～」

応 募 資 格：小学生・中学生（小・中学生と同じ学齢のものを含む）

応 募 方 法：1) 400 字詰原稿用紙 3 枚以内（本文のみで 1,200 字）

2) 地域組織・学校でとりまとめる場合は、必ず選考を行う

副 賞：上位賞／メダル・電子辞書 or 腕時計 (G-Shock) or 電波時計・文房具  
入 選／メダル・電波時計・文房具

締め切り：9 月 23 日（水）必着

審 査：第 1 次審査：9 月 23 日（水）～10 月 5 日（月）

第 2 次審査：10 月 18 日（日）

最終審査会：11月4日（水）

審査委員 5名（内閣府大臣官房総務課管理室長ほか）

感染症拡大の影響を受け、参集しての審査会は行わず、事前の審査評価を  
基に各賞を決定した。

入賞・入選者数：130名 内訳／大臣賞 2名・運動本部賞 2名・特別優秀賞 6名

フレンドシップ賞 1名・優秀賞 19名・入選 100名

要項・入賞発表：毎日新聞／ 5月20日（水） 11月19日（木）

教育新聞／ 6月15日（月） 12月7日（月）

情報誌『小さな親切』春号&令和3年新春号

本部 WEB サイト

表彰式：中止 ※賞状及び副賞は各学校または地域組織より伝達した。

### 3. 青少年すこやか育成事業 <（公財）JKA 補助事業>

#### 【補助事業の終了】

東日本大震災の発生を受け、被災地及びその他地域の子どもたちの心の育成を目的に、  
10年計画の補助事業として展開してきたが、スタートから9年間で、当初の目的はあ  
る程度達成できたとし、以後補助申請は行わず自主事業として継続することとした。

#### ○ 紙芝居授業

1) オリジナル紙芝居『まつりのひ』を用いた道徳授業の実施

講 師：馬場喜久雄（全国小学校道徳教育研究会顧問）

実 施 校：1校 東京都荒川区立第四峡田小学校／4年生 61名

授業終了後に、教員向け研修会を開催

実 施 日：12月3日（木）

2) 教員向けの授業実施手引き『道徳授業で使える 紙芝居レシピ』の作製

監 修：馬場喜久雄（全国小学校道徳教育研究会顧問、紙芝居授業講師）

部 数：3,200部

配 布 先：都道府県教育委員会、地域組織（小学校）等

- ・ 9年間の活動の集大成として、紙芝居を活用した道徳授業の進め方を取りまとめた手引き『道徳授業で使える 紙芝居レシピ』を作製し、全国の教育委員会、地域組織経由で各地の小学校等に配布した。

#### ○ 幼児教育プログラム

- ・ 幼児の思いやりの心を育てる教育ツール『おはなしメリーゴーランド』に二つの新しいテーマを追加し、教育プログラムを追加。WEBサイトで配布（ダウンロードして利用）した。

テ ー マ：1) おみまい編

物理的な距離があっても心を寄り添わせることができるというメッセージを伝える。

2) お片づけ編

整理整頓の大切さ、楽しみながら片づけられることを学ぶ。

○ 工作（おもちゃ作り）動画

- ・ ステイホームで“おうち時間”の増えた親子に役立ててもらおうと、工作教室の有賀 忍講師（板絵画家・江戸川大学客員教授）を迎えて、職員出演の紙皿を使ったおもちゃ作り動画を制作。

○ 青少年教育専用 WEB サイト「てらこあん」を通じた教育活動

- ・ 前年度実施した道徳授業の動画、工作教室で取り組んだおもちゃの作り方動画のほか、講師と職員出演の工作動画を公開。また小学生向け、幼児向け教育ツールなどを提供（ダウンロード可）。

#### 4. みんなつながる、トモダチ作戦

○ 「伝えよう、日本の心プロジェクト」事業の一環として展開

「東京 2020 応援プログラム」認証を受け、応援マーク入りのグッズを作製し、あいさつ運動推進先に提供。

- ・ オリ・パラの延期を受け、「東京 2020 応援プログラム」が継続されるかどうか、しばらく発表がなかったことから、7 月以降※は「東京 2020 応援マーク入り」の活動グッズは提供せず、従来デザイングッズを提供した。
- ・ 結果的に、あいさつ運動「みんなつながる、トモダチ作戦」自体の需要はあったものの、プロジェクトの推進には結びつかなかった。

※「応援マーク」の使用に関し、期限等厳しい規程があり、当初は令和 2 年 9 月までと定められていた。なお、「応援プログラム」は、令和 3 年 9 月まで継続が決定。

○ あいさつ推進グッズの提供数（無料提供）

1) 応援マーク入りグッズ

提供団体：23 団体

配布物：のぼり 174 枚・たすき 633 枚・ポスター 280 枚

2) 従来デザイングッズ

提供団体：53 団体

配布物：のぼり 346 枚・たすき 1,013 枚・ポスター 2 種 410 枚

※ 1 団体につき、のぼり 3 枚、たすき 10 枚、ポスター 4 枚（但し、規模の大きな学校から、1 団体あたりの配布数を超える要望がきた場合は、これに応じる）

※ 当該年度より、非会員は送料 700 円を負担。



1) 応援マーク入りグッズ

2) 従来デザインのグッズ

#### ○ 提供先について

- ・ 学校が再開した7月以降、コンスタントに申し込みがあった。コロナ禍でソーシャルディスタンスが求められているからこそ、人との関係をあいさつでつながりようの取り組みが広がったように思われる。
- ・ 提供先の約7割がWEBサイト経由の非会員校だった。また、学校と地域が連携して学校運営に取り組む「コミュニティースクール」実施校や自治会等、地域ぐるみの大規模な取り組みが2件あった。

#### ○ 活動事例の紹介

情報誌『小さな親切』での紹介。

- 春号 (No.518) ・ 茨城県 水戸電子専門学校 ・ 新潟県 新発田市東小学校
- ・ 山口県 山口市立平川中学校
  - ・ 埼玉県 さいたま市立上落合小学校／与野南小学校
- 夏号 (No.519) ・ 北海道 岩見沢市立南小学校／明成中学校／北村中学校
- 新春号 (No.521) ・ 奈良県 奈良学園前・鶴舞地区
- ・ 埼玉県 さいたま市立德力小学校

## 5. ことばの魔法プロジェクト

### 第36回「小さな親切」はがきキャンペーン

#### ○ 応募作品の傾向

- ・ 募集開始が1回目の緊急事態宣言と重なったこともあり、新型コロナウイルス感染症に関連した作品が目立った。
- ・ ステイホームにより“おうち時間”が増加したことから、身近な家族への感謝を綴った作品が増加。中でも父親への思いを綴る作品が増えたことは、これまでにはない傾向だった。

#### ○ 応募総数 2,074 編

- ・ 前年度比 102.3%。在宅時間が増えたことからか、WEB 広告経由の一般応募が増加。
- ・ これまで応募者層は、熟年、高齢者層が大きな割合を占めていたが、近年、30

代、40代層が増加。その中で、今年度は10代～70代（40代除く）と幅広い層が入賞をはたし、本キャンペーンの趣旨が浸透していることがうかがわれた。

○「伝えよう、日本の心プロジェクト」事業の一環として展開

- 1) 「東京 2020 応援プログラム」認証を受け、東京 2020 応援マーク入りの応募要項を作製。 応募要項 8,000 部
- 2) 特別テーマに沿って書かれた作品の割合は、前年度と比べても大きな変化はなかった。本テーマの作品の筆者、長崎県の福島洋子さんに『フレンドシップ賞』を贈呈。

〔実施概要〕

後 援：日本郵便株式会社 読売新聞社

テ ー マ：「心から伝えたい“ありがとう”」

特別テーマ：「世界との出会い ～ありがとう、どういたしまして～」

対 象：子どもから大人まで

応募方法：はがき及び専用フォームまたはメールで応募（いずれも 600 字以内）

締め切り：9月8日（火）当日消印有効

審査会：10月5日（月）

審査員 5 名（日本郵便㈱切手・葉書室担当部長ほか）

感染症拡大の影響を受け、参集しての審査会は行わず、事前の審査評価表を基に各賞を決定した。

入賞・入選者数：25 名 内訳／大賞 1 名・日本郵便賞 1 名・読売新聞社賞 1 名・

審査員特別賞 1 名・フレンドシップ賞 1 名・入選 20 名

副 賞：上位賞／切手シート・図書カード・書籍・高級文房具

入 選／図書カード・文房具

要項・入賞発表：読売新聞／4月21日（土） 10月30日（金）

レターパーク 5月号・公募ガイド 6／9月号・登竜門・

キャンパスドットコム・情報誌『小さな親切』春号&令和 3 年新春号

本部 WEB サイト

表彰式：中止 ※賞状及び副賞は本人または学校宛に送付。一部地域組織より伝達した。

## 6. 令和 2 年度「小さな親切」運動全国表彰式

会場は 3 密を回避することが困難であることから、感染症拡大防止のため式典を中止。また当該年度の運動推進に特に尽力された団体、個人に贈呈する『運動大賞』、『運動賞（個人・団体）』については、活発な活動を展開すること自体が難しいと想定されたため、本年度の贈呈は見合わせることにした。なお、内閣官房長官賞は例年 5 名枠をいただいていることから、内閣府に 5 名を推薦し受賞が決定した。

例年式典で表彰している『内閣官房長官賞』『作文コンクール（入賞・入選）』『はがきキャンペーン（入選・入賞）』については、地域組織に協力を依頼し、可能であれば伝達いただき、難しい場合はご本人または学校に賞状、副賞等を送付した。

## 「小さな親切」運動推進功労者内閣官房長官賞 / 5名

- |                |     |          |
|----------------|-----|----------|
| 1) 北村 清士 (73歳) | 福島県 | 福島県本部前代表 |
| 2) 林 静誠 (83歳)  | 千葉県 | 船橋市支部代表  |
| 3) 下田 裕紹 (79歳) | 群馬県 | 富岡支部前副代表 |
| 4) 岡田 博利 (72歳) | 福岡県 | 行橋支部副代表  |
| 5) 小林 道子 (75歳) | 埼玉県 | 川口支部事務局長 |

## 7. 『小さな親切』誌の刊行 <(一財)日本宝くじ協会助成事業>

季刊発行：年4回（春号5月・夏号8月・秋号11月・新春号1月）

発行部数：1回あたり約33,000部 年間延べ132,000部

## 8. 地域の輪・和・環プロジェクト

### ○ 地域組織に車椅子を斡旋

- ・ 車椅子発注先は、A2Z（東京都・ピジョンタヒラ代理店）。
- ・ 資材等の高騰による前年度斡旋機種（USG-1：ミキ社製）の値上がりを受け、同価格でより軽く、サポート体制が充実しているピジョンタヒラ製（TD-1N）に斡旋機種を変更。購入組織が、地域の社会福祉施設等に寄贈した。

### 〔実施概要〕

実施組織：16県本部 10支部

斡旋数：82台（うちリクライニング2台）

種類：・TD-1N（ピジョンタヒラ社製）

自走式／介助ブレーキ（ドラム式）付／背折れタイプ

キャスター6×22インチ／座幅40cm／前座高43.5cm／全長98cm

全幅63cm／全高85cm／重量11.9kg

- ・ プレート サイズ縦4cm×横11cm／白地に黒文字の亚克力製  
文字は3段以内で1段の文字数は13文字程度

価格：①車椅子本体 18,400円 / メーカー希望小売価格 75,000円

②プレート 2,000円 / 希望組織のみ

展開方法：・4月購入希望（台数及びプレートの有無）のアンケート実施

・6月に締切り、A2Z（東京都・ピジョンタヒラ代理店）に発注

・10月1日～11月1日の期間に、A2Zより指定先へ発送

代金請求&入金：中央本部より11月に請求し、12月25日（金）までに入金

### ○ 納品の遅延

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による海外からの車椅子納品遅れ等により、一部注文分に到着の遅延が発生（10月1日（木）到着分 プレート付車椅子48台 / 11県本部6支部が該当）。販売店及びメーカーと問題点を洗い出した上で改善内容を確認し、次年度以降は確実に納品発送日を管理する体制を構築した。

## 9. 日本列島クリーン大作戦(37回目)

- 「伝えよう、日本の心プロジェクト」事業の一環として展開  
「東京2020応援プログラム」認証を受け、年度初めに東京2020応援マーク入りの、のぼり・ポスターを配布（平成30年度作製分を使用）。
  - ・ 大規模イベントは感染拡大防止の観点から、多くが中止、延期となった。
  - ・ 延期の場合、秋口に参加企業の周辺道路や公園、学校周辺での清掃活動を行う中小規模のものが多く、最大でも500名の参加であった。
  - ・ 実施組織：16組織で、のべ約6,700名が参加
  - ・ 実施した組織では、受付での検温ならびに手指消毒、緊急連絡用名簿の記入を行うほか、活動中はマスク着用を呼びかける、参加者同士の距離を取るなどの感染対策を行った。
- ごみ袋総数 115,000部 /提供：日本たばこ産業（株）  
内訳／可燃・不燃用共通30ℓ：56,700枚 ・手提12ℓ：58,300枚

### 〔実施概要〕

後 援：内閣府、文部科学省、総務省、農林水産省、経済産業省、  
国土交通省、環境省、警察庁  
協 賛：コカ・コーラ協会、(公社)食品容器環境美化協会、  
スチール缶リサイクル協会、(公財)日本環境協会、  
日本石鹼洗剤工業会  
スローガン：美しい日本、美しい心  
期 間：令和2年4月1日（水）～令和3年2月28日（日）

## 10. 日本列島コスモス作戦（32回目） <協力：タキイ種苗(株)>

- 種子の斡旋  
コスモス種子袋及び種子（dℓ・ℓ）、ミニヒマワリ種子袋、ヒマワリ種子袋の斡旋。

### 〔実施概要〕

発注数：●コスモス種子袋	34,116袋
種子（dℓ・ℓ）	114dℓ・31ℓ
●ミニヒマワリ種子袋	63,372袋
●ヒマワリ種子袋	1,359袋
価格（税込）：①コスモス種子袋	1袋 13円
②ミニヒマワリ種子袋	1袋 13円
③ヒマワリ種子袋	1袋 13円
④コスモス種子	1dℓ 550円 ・ 1ℓ 5,445円
発送：4月中旬	
代金請求と入金：中央本部から4月に請求し、5月末日までに入金	

- ・ 感染症拡大防止により、PRグッズとして種子を配布するイベントが中止となっ

たり、休校で活動が制限された学校への贈呈が減少したため、種子を配布しきれない地域組織も多くあった。

## 11. 使用済み切手等寄贈

### ○ 感染症拡大による受付停止

- ・ 個人、企業、学校等からの寄贈分を中央本部で取りまとめ、寄贈先へ送付。地域組織が取りまとめたものは、基本的に海外支援団体に直接送付してもらう。
- ・ しかし、感染症の流行により、2つの寄贈先（（公財）ジョイセフ・（公社）日本キリスト教海外医療協力会）の受け入れ停止期間が長かったため、例年のような活動が困難であった。
- ・ 当該年度は、中央本部では通年受け入れを行っていた下記団体に寄贈。

〈寄贈先〉 使用済み切手:（公財）緑の地球防衛基金

使用済みプリペイドカード: NPO 法人日本国際ボランティアセンター

※地域組織は、（公財）ジョイセフが受け入れを一時再開した時期に、同団体に寄贈

### ○ 収集・寄贈数量

- ・ 使用済み切手 429.74 kg ・ プリペイドカード 3,116 枚  
（静岡、奈良、山陰、香川、愛媛、鹿児島各県本部収集・寄贈分を含む。なお、広島、山口両県本部は、収集活動は行ったが新年度寄贈予定のため、ここに含めていない）

### ○ 協力者氏名をホームページに掲載

内訳／地域組織 8 件・企業 33 件・団体 13 件・個人 25 件・匿名 15 件

地域組織（県本部・支部）					
青森県	十和田支部	宮城県	宮城県本部	山形県	酒田「小さな親切」の会
福岡県	行橋支部	熊本県	熊本県本部		
企業・団体					
北海道	㈱開高建設	北海道	㈱中神土木建設事務所	北海道	㈱ミズノ硝子建材
北海道	北見信用金庫 雄武支店	北海道	北見信用金庫 卸町支店	北海道	北見信用金庫 業務部
北海道	北見信用金庫 端野支店	北海道	北見信用金庫 北光支店	北海道	北見石油販売㈱
北海道	北見通運㈱	北海道	京セラ㈱ 北海道北見工場	北海道	三九建設㈱
北海道	北信興産㈱	北海道	北海道ガス㈱ 北見支店	北海道	宗教法人 本覚寺
秋田県	損保ジャパンパートナーズ㈱ 秋田支店	千葉県	新日本メンテナンス㈱	千葉県	日高装備㈱
東京都	オリックス・レンテック㈱ ICT 事業推進部	東京都	三省堂印刷㈱	神奈川県	㈱日立物流南関東 神奈川営業所
岐阜県	㈱松永製作所	静岡県	伊藤司法書士事務所	静岡県	㈱佐藤
静岡県	㈱富士セラミックス 管理部総務課	静岡県	静岡ガス㈱ 東部支社	静岡県	静岡県西部出納室
大阪府	安藤忠雄建築研究所	大阪府	医療法人拓海会 大阪北ホームケアクリニック	大阪府	社会医療法人仙養会 北摂総合病院

大阪府	マーカス経営会計事務所	奈良県	奈良県旅館・ホテル 生活衛生同業組合	島根県	(有)夢工房
岡山県	タチバナ工業(株) 中国支店	岡山県	水島商運(株)	広島県	(株)熊平製作所
山口県	(株)日本セレモニー	鹿児島県	(株)朋友		

個人

北海道 2 名・山形県 1 名・栃木県 1 名・群馬県 1 名・埼玉県 1 名・千葉県 1 名・東京都 2 名・神奈川県 2 名・  
長野県 1 名・三重県 1 名・奈良県 1 名・鳥取県 1 名・愛媛県 1 名・宮崎県 1 名・鹿児島県 1 名・匿名 15 件

## 12. 伝えよう、日本の心プロジェクト <東京 2020 応援プログラム認証事業>

### ○ 各事業の実施状況

- 1) 日本列島クリーン大作戦 / のぼり旗、ポスター提供  
→ 大人数が集まるイベントの開催は非常に困難であったため、地域組織が予定していた活動の多くが、中止または小規模実施となった。
- 2) みんなつながろ、トモダチ作戦 / のぼり旗、たすき、ポスター提供  
→ 応援プログラムが予定通り令和 2 年 9 月に終了となることも想定し、夏以降は従来のグッズを中心に提供したため、プロジェクト本来の趣旨につなげられなかった。
- 3) 「小さな親切」実行章 / 海外交流が推薦事由の場合、特製バッジを贈呈  
→ 訪日外国人の激減により、海外の方との交流等の内容の推薦が非常に少なかった。
- 4) はがきキャンペーン / 特別テーマの設定  
→ 特別テーマ（海外の方との交流）に沿って書かれた作品応募の割合は、前年度とほぼ変わらなかった。
- 5) 「小さな親切」作文コンクール / 特別テーマの設定  
→ 入賞・入選 130 作品中、特別テーマ作品応募の割合は 10.0%（昨年度は 18.5%）と、やや減少。留学やホームステイ等の体験が減ったためと考えられる。

## 13. その他

### ○ 各地域の親切運動支援

- 1) 地方活動助成費の交付 / 6 月交付  
総 額：8,085,000 円（令和元年度会費収入の 12%）
- 2) 全国地方本部事務局長会議  
新型コロナウイルス感染症拡大を受けて中止。
- 3) 地域組織の各種会合への講師派遣、会議出席等  
予定していた地域組織の会合が全て中止されたため、派遣、出席なし。

○ 各種パンフレット、ポスター等の作製

1) 基本資料

基本パンフレット・三つ折りしおり・八か条カード・実行章パンフレット・  
八か条ポスター・「小さな親切」運動イメージポスター

2) 法人会員楯、会員バッジなど

○ 滋賀県本部解散

令和2年7月31日の県本部総会にて解散を決定。なお、代表及び事務局を担った、  
滋賀銀行は引き続き法人寄附会員として運動をサポート。

## 収益事業

### 1. はがきキャンペーン作品の書籍化

当該年度は書籍化なし。

### 2. 「小さな親切」運動グッズの販売

感染症の影響でマスクが必須アイテムとなったことから、マスクケースを2,000部作製し、  
11月より販売を開始。コンクールの副賞、会員への配布などの目的で、地域組織を中心に  
購入申し込みがあった。



〈マスクケース 表面〉



〈中面〉

#### 〔作製物〕

クリアファイル：@ 50円

ボールペン：@100円（地域組織販売価格@60円）

マスクケース：@400円（地域組織販売価格@350円）

※会員には割引を行い、会員特典を設定した。

※クリアファイルは、地域組織には県本部3箱、支部1箱の上限を設けて無料提供。

（送料1箱550円は組織負担）。上限を超えた場合は上記価格で販売。

#### 〔販売数〕

クリアファイル：2,903枚 131,550円（無料提供分除く）

ボールペン：1,728本 106,400円

マスクケース：1,069枚 374,850円

### 3. 作品集の販売

- 作品集 / 作文コンクール&はがきキャンペーン合併版

タイトル：『こころに花束を』

作成数：3,000部

価格・販売数：@450円（地域組織・会員割引：10冊以上購入で30%OFF）

発行日：令和3年2月15日（月）

## その他事業

### 1. 総会・理事会

- 1) 第10回社員総会：書面開催（役員のみ出席）

令和2年6月26日（金）14:00～ / 「小さな親切」運動本部事務局

- 2) 理事会 4回開催

第42回（5/28）・第43回（6/26）・第44回（9/1）・第45回（翌年3/12）

### 2. 「小さな親切」運動本部特任推進委員の委嘱

当該年度は委嘱者なし。

### 3. エコキャップ収集運動

地域組織の自主事業として展開され、京都府本部、山陰本部、山口県本部、香川県本部が実施。なお、これまで全県で行っていた福島県本部の取り組みは8月で終了。

### 4. 心の国際交流

地域組織の自主事業として展開しているが、感染症拡大の影響を受け、当該年度の交流活動は全て中止。但し、栃木県足利支部は、外国人留学生などを招いて行っていた国際交流イベントが2年続けて中止となることから、今年度は会員向けに資料を配布し国際交流活動への理解と協力を求めた。

## 広報活動

### 1. WEB サイトによる情報発信

公式 WEB サイト、Facebook、YouTube 等を通じて、実行章事例、青少年すこやか育成事業の活動内容等を発信。

なお、Facebook で紹介した実行章事例は閲覧者が多く、好評であった。

### 2. メディアへの情報提供

一部、クリーン大作戦におけるオリ・パラ関連の活動を伝えたが、取り組み自体が困難であったことから、十分な情報発信はできなかった。

## 寄 附

金 額 608,316 円

寄附者 34 件（匿名含む）

## 見舞金

見舞金の呼びかけなし。